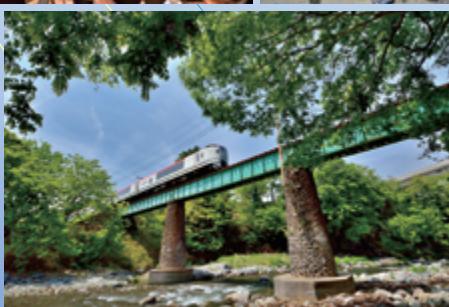


# TAMRON

## 株主通信

第70期 報告書



2016年1月1日



2016年12月31日

## コーポレートロゴ変更のお知らせ

タムロンはコーポレートロゴを一新し、2017年2月20日より順次使用開始しました。

旧デザイン



新デザイン



### ■ 変更の背景について

タムロンは2015年9月、高性能を徹底追求した写真用交換レンズ「SPシリーズ」の刷新を機に、日本国内及びグローバルマーケットに向けて製品ブランドのリニューアルをスタートしました。この活動の一環として製品のブランドを体現するロゴタイプを新たに開発し、新機種から順次導入してまいりました。そしてこの度、コーポレートロゴとして順次使用開始することとなりました。

### ■ 新しいロゴタイプのデザインについて

これまでのロゴタイプは1978年に開発して以来、39年間にわたり使用してまいりました。この間タムロンは、開発から生産までレンズを一貫生産できる、世界でも極めてユニークな企業として事業分野を大きく拡大し、国内のみならず、海外に大きく活動を拡大してまいりました。この新しい「TAMRON」ロゴタイプは、従来のデザインを継承しつつ、グローバルな視点でデザインしました。文字をすべて大文字で統一することにより、これまでのロゴタイプと比較して、可読性に優れ、よりはっきりと分かりやすく企業名を認識することができます。そして、緻密にデザインされたロゴタイプは、シンプルで力強く、信頼性や技術力の高さ、はっきりとした存在感を表現しています。

## Contents

コーポレートロゴ変更のお知らせ	1	連結財務ハイライト	9-10
ごあいさつ	2	連結財務諸表	11
トップインタビュー	3-4	会社情報	12
トピックス	5-6	フォトコンテスト開催報告	13
セグメント別事業の概況	7-8	タムロンのもづくり	14

## ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第70期(2016年1月1日~2016年12月31日)の営業概要について、ご報告申し上げます。

当期における経営環境は、ドル、ユーロともに前期比で10円以上の大幅な円高となったことに加え、当社グループ関連市場であるデジタルカメラ市場において、熊本地震による部品供給停滞の影響等により、レンズ交換式カメラ及び交換レンズが、数量・金額ともに前期比10%以上の減少となる等、厳しいものとなりました。

このような状況の下、当社グループの当期における経営成績は、円高による為替のマイナス影響やデジタルカメラ市場の低迷の影響等により、売上高は599億3百万円(前期比16.7%減)となり、経費削減に注力いたしましたが、営業利益は23億61百万円(前期比48.2%減)、経常利益は28億55百万円(前期比44.4%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は14億82百万円(前期比63.4%減)となりました。

### 配当金について

第70期の期末配当金につきましては、1株当たり普通配当金30円とさせていただきます。これにより、既にお支払済みの中間配当金25円と合わせ、当期の1株当たり年間配当金は55円となり、配当性向は96.2%となりました。

### 次期の見通し

経営環境には不透明感もございますが、自社ブランド交換レンズの新製品の積極投入等による既存事業の成長、また新規分野への参入等により、増収増益を目指してまいります。



代表取締役社長 鯉坂 司郎

株主の皆様におかれましては、これからも引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2017年3月

## 特集 中期経営計画について

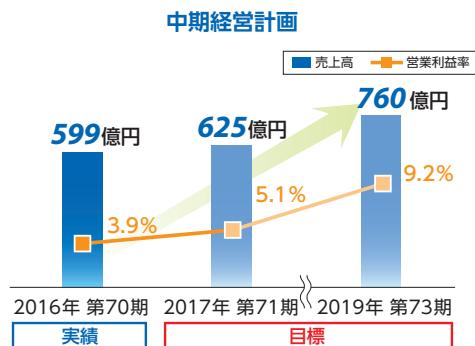


**Q** 中期経営計画のテーマは何ですか？

**A** 事業構成のバランスを取りつつ、収益性の向上を図ることで。

2016年においては、デジタルカメラ関連の売上高が80%を超えていますが、2019年には監視関連や車載関連での成長やドローン等の新たな市場への参入を図ることで、売上構成比は60%台へと低下させていきたいと考えています。

なお、デジタルカメラ関連については、売上高は減らすわけではなく、増収を目指しますが、大きな売上成長を目指すことよりも中核事業として収益性の向上を図っていくことで、グループ全体の収益性を高めていきます。



2019年数値目標

売上高	760 億円
営業利益	70 億円
営業利益率	9.2%
ROE	10%以上

※為替前提：1米ドル=105円  
1ユーロ=113円

**Q** 昨年3月の社長就任後、1年が経ちましたが、課題と戦略は何ですか？

**A** 昨年3月の社長就任後、次の6つの変革テーマを掲げ、社内に周知させ、各部門や部門を横断した場にて議論を深めてきました。既に実施したものもありますが、本年は具体的な施策を本格的に進めていきたいと考えています。

変革テーマ

- ① マーケティング力、営業力の強化
- ② 顧客感動を得られる商品創り
- ③ 販売・生産・開発のグローバル化
- ④ 開発体制の再構築
- ⑤ 新規事業の育成強化
- ⑥ 企業体質の改善

**Q** 具体的にはどのような施策を実施していきますか？

**A** 例えば、②の「顧客感動を得られる商品創り」では、主に自社ブランド交換レンズを扱う国内と海外の部門を映像事業本部に統合し、商品企画機能を強化しました。

③の「販売、生産、開発のグローバル化」では、販売面では、米国の販売会社を米州全体の統括をする販売拠点へと強化することや、アジア市場の販売網の構築を進めていきます。

開発面では、既に中国工場に監視カメラ用レンズの開発部門を設置しました。開発コストの低減、開発スピードの向上を図っていきます。

④の「開発体制の再構築」では、昨年新設した研究開発センターによる中長期的な視点での要素技術開発を強化するとともに、開発部門の再編を含め、効率化を推進していきます。

⑤の「新規事業の育成強化」では、2017年から新たにドローン市場に参入し、2019年には売上高30億円以上の事業規模に育成します。またカメラモジュールビジネスの軌道化や、医療関連等の新たな事業分野への参入も積極的に検討していきます。

**Q** 中期経営計画の初年度となる2017年の見通しを教えてください。

**A** 写真関連では、自社ブランドの新製品投入機種数を大幅に増やしていきます。2017年に入り既に3機種の新製品を発売していますが、今後も積極的に新製品を投入していきます。



また、レンズ関連では、ここ数年間は減収が続いていましたが、2017年はドローン市場への参入により、増収への転換を図ります。特機関連では、車載用レンズを引き続き成長させ、監視カメラ用レンズも回復を見込んでいます。

これらの結果、売上高625億円(前期比4.3%増)、営業利益32億円(前期比35.5%増)、経常利益は32億円(前期比12.0%増)、親会社株主に帰属する当期純利益22億40百万円(前期比51.1%増)と、増収増益を見込んでいます。

全社員一丸となって、2017年の計画達成に向けて邁進するとともに、今後3ヶ年において中期戦略を着実に実行することで、持続的な発展・成長を実現できる企業としての経営基盤を構築していきます。

## 受賞

SP 85mm F/1.8 Di VC USD (Model F016) が世界的に権威ある  
EISAアワード『ヨーロッパ DSLRレンズ 2016-2017』賞を受賞

タムロンレンズは11年連続受賞の快挙を達成



- デジタル一眼レフ用として世界初※、手ブレ補正機構を搭載
- 諸収差を抑え、高い解像力と自然なボケ味を実現



### SP 85mm F/1.8 Di VC USD (Model F016)

35mm判フルサイズデジタル一眼レフカメラ対応の大口径中望遠レンズ。タムロンの定評ある手ブレ補正機構「VC」の搭載により、夜景などの低照度下でも手持ち撮影が可能に。さらに、卓越した光学設計で諸収差を徹底補正し、優れた解像力と自然なボケ味を実現しました。ハイアマチュアからプロまで満足いただける高性能レンズです。

※35mm判フルサイズ対応のデジタル一眼レフカメラ用85mm F/1.8レンズにおいて、2016年1月現在。(タムロン調べ)

## 新製品発売

- 大幅な進化を遂げた 最新の超望遠ズームレンズ誕生
- 超望遠撮影の可能性 を広げるAF速度向上と手ブレ補正4.5段を実現



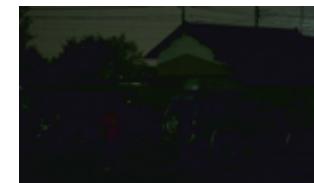
### SP 150-600mm F /5-6.3 Di VC USD G2 (Model A022)

小型軽量の超望遠ズーム レンズSP 150-600mm (Model A011) の性能を大幅に向上させた新製品。光学性能、近接撮影能力、AFスピード・精度、手ブレ補正機能の向上をはじめ、フレックスズームロック機構や防汚コートなどの新機能を追加するなど、撮影時の利便性も高め、大きな進化を 遂げています。また、同時発売のテレコンバーターを使用することで撮影領域が広がり、さらなる超望遠の世界を楽しむことができます。

## 技術開発

### “人の眼を超えるイメージング技術”を開発

夜間撮影：0.4ルクス



人の眼のイメージ



新たなイメージング【超高感度】  
(試験機による実際の撮影画像)

当社は「国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST)」の支援を受けて、「超高感度」と「広ダイナミックレンジ」を両立した新しい映像技術の開発を行いました。超高感度技術では、星明りよりも暗い0.003ルクスという極低照度下での鮮やかなカラー撮影を可能とし、広ダイナミックレンジ技術では140dB (明暗差1000万倍) を超える幅広いレンジで、低照度から高輝度まで階調表現が可能です。

これらが同時に実現できたことにより、人の眼を超えた新しいイメージングの世界を実現しました。



#### 特機関連

5メガピクセル 近赤外対応  
パリアフォーカルレンズ Pアイリスタイプ発売

#### 受賞

SP 85mm F/1.8 Di VC USD (Model F016) が  
EISAアワード受賞



#### 写真関連

SP 90mm F/2.8 Di MACRO 1:1 USD  
(Model F017) ソニー用発売

#### CSR



ECO-PRODUCT  
自社基準で環境配慮製品を追加認定



#### 写真関連

SP 150-600mm F/5-6.3 Di VC USD G2  
(Model A022) 発売

#### 写真関連

タムロンレンズ専用  
テレコンバーター 2機種 (1.4xと2.0x) 発売

#### 写真関連

18-270mm F/3.5-6.3 Di II VC PZD  
(Model B008TS) を発売

#### 特機関連

1/1.2型、5メガピクセルで、  
φ29mm小型サイズ。  
FA用単焦点レンズシリーズ発売



#### 写真関連

SP 85mm F/1.8 Di USD  
(Model F016)  
ソニー用発売

#### 特機関連

技術開発発表 “人の眼を超える  
イメージング技術”を開発

2016

7月  
July

8月  
August

9月  
September

10月  
October

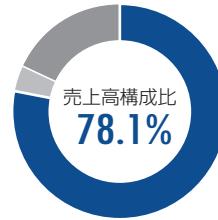
11月  
November

12月  
December

セグメント別事業の概況

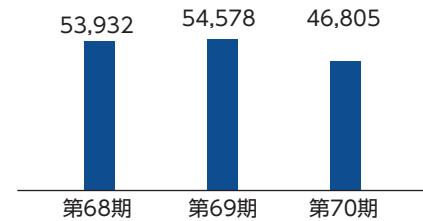
写真関連事業

自社ブランド交換レンズは高仕様設計による高性能を追求した「SP」シリーズとして、マクロレンズSP 90mm F/2.8 VC USD (F017)、中望遠単焦点レンズ SP85mm F/1.8 VC USD (F016)、大幅な進化を遂げた最新の超望遠ズームレンズ SP 150-600mm VC USD G2 (A022) 等の新製品を発売した効果や中国市場での増収等がありました。しかし、レンズ交換式カメラ及び交換レンズ市場の低迷継続の影響等により、減収となりました。また、OEMもわずかに減収となりました。

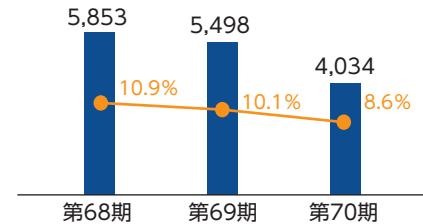


このような結果、写真関連事業の売上高は468億5百万円(前期比14.2%減)となり、営業利益は対ユーロの円高による為替のマイナス影響を大きく受けたこともあり、40億34百万円(前期比26.6%減)となりました。

売上高 (百万円)

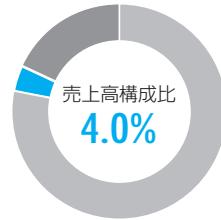


営業利益(百万円) / 営業利益率 (%)



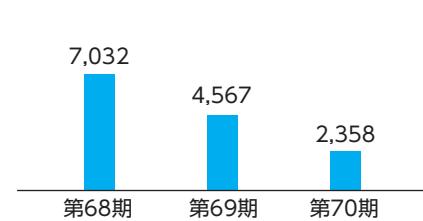
レンズ関連事業

遠赤外線レンズは増収となりましたが、コンパクトデジタルカメラやデジタルビデオカメラ用レンズは、市場の大幅縮小、熊本地震の影響等により大幅な減収となりました。

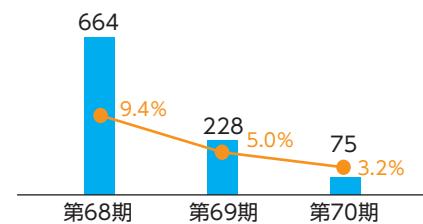


このような結果、レンズ関連事業の売上高は23億58百万円(前期比48.4%減)、営業利益は75百万円(前期比67.1%減)となりました。

売上高 (百万円)

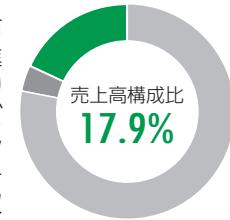


営業利益(百万円) / 営業利益率 (%)



特機関連事業

車載カメラ用レンズは車載カメラ市場の拡大を見据えて事業強化を推進してきた成果により、大幅増収となりましたが、監視カメラ用レンズはレンズメーカー間での競争激化や中国カメラメーカーの台頭等によるカメラメーカーシェアの変動の影響等もあり減収となりました。

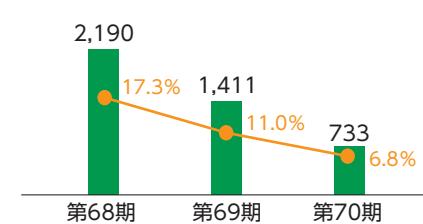


このような結果、特機関連事業の売上高は107億39百万円(前期比16.1%減)となり、営業利益は今後も安定的な成長が見込まれるセキュリティ分野での新製品の開発等に注力したことや、新規事業であるカメラモジュール関連の先行投資負担もあり、7億33百万円(前期比48.0%減)となりました。

売上高 (百万円)



営業利益(百万円) / 営業利益率 (%)



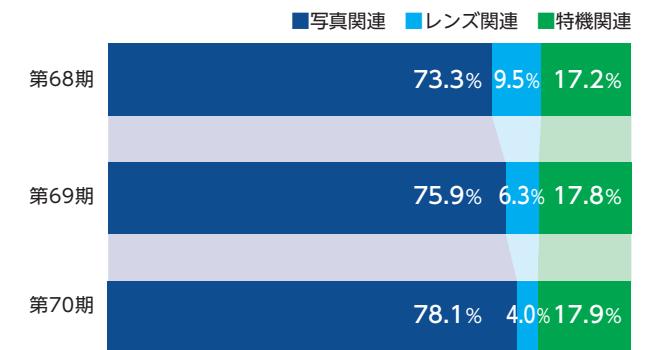
セグメント別データの推移

(百万円)

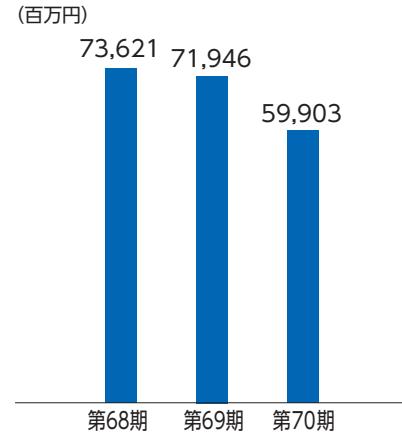
	第68期	第69期	第70期	
写真関連	売上高	53,932	54,578	46,805
	セグメント利益	5,853	5,498	4,034
レンズ関連	売上高	7,032	4,567	2,358
	セグメント利益	664	228	75
特機関連	売上高	12,656	12,800	10,739
	セグメント利益	2,190	1,411	733
セグメント利益の調整額	△ 2,632	△ 2,584	△ 2,482	
連結営業利益	6,076	4,554	2,361	

※セグメント利益の調整額は、当社の総務、経理等の本社部門に係わる配賦不能営業費用等です。

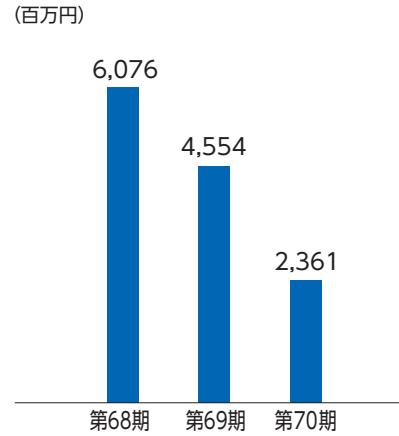
連結売上高構成比率の推移



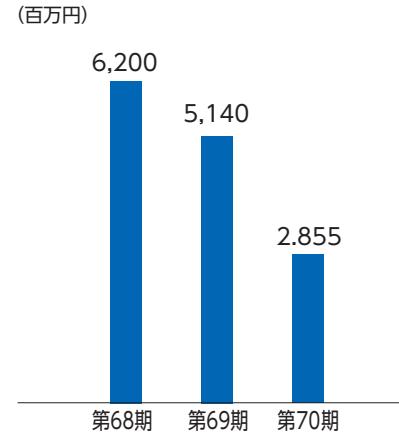
売上高



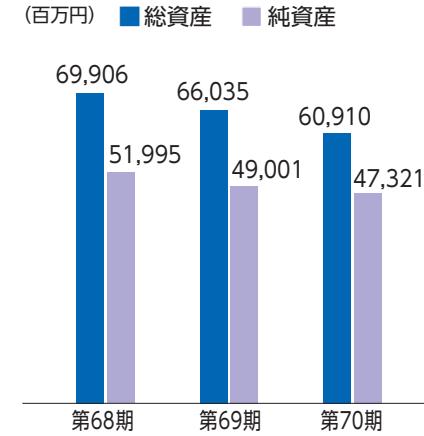
営業利益



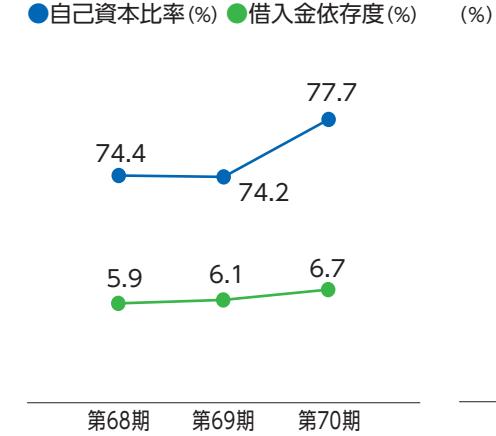
経常利益



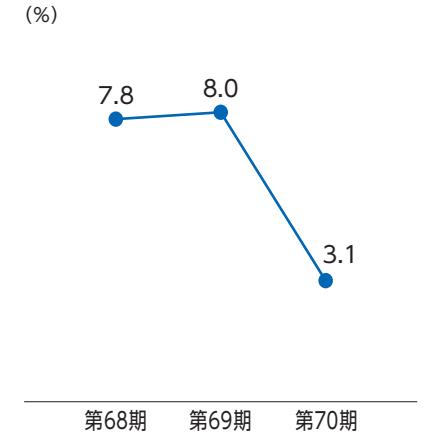
総資産・純資産



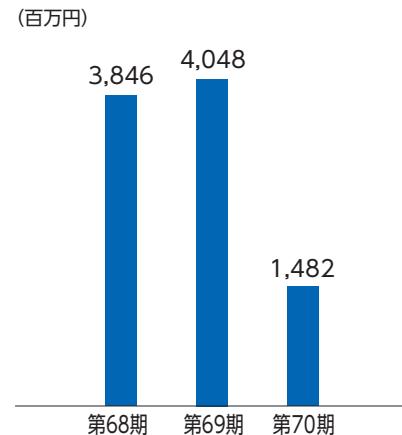
自己資本比率 / 借入金依存度



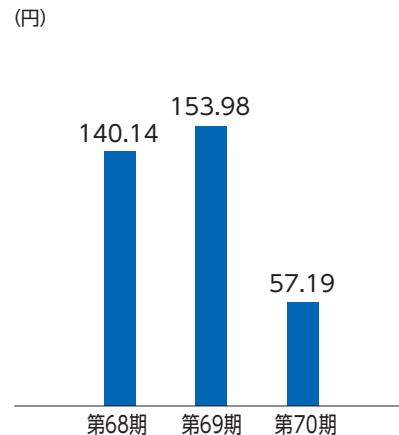
ROE (自己資本当期純利益率)



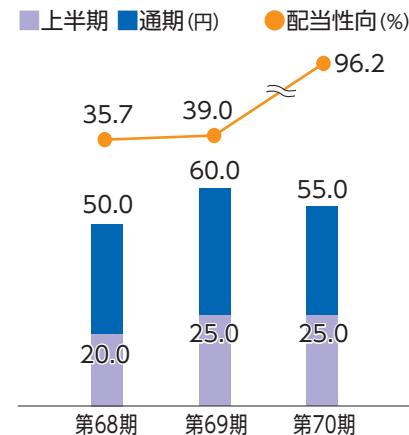
親会社株主に帰属する当期純利益



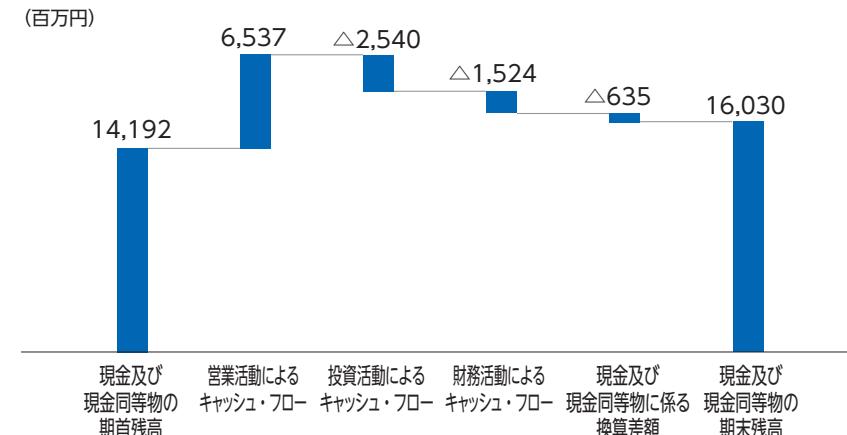
1株当たり当期純利益



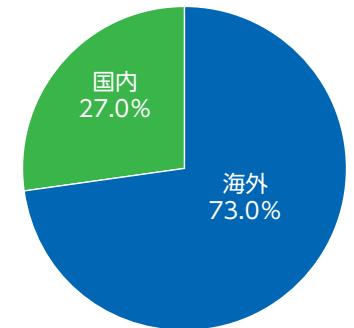
1株当たり配当金 / 配当性向



キャッシュ・フロー (第70期)



海外売上高比率 (第70期)



連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	(2016年12月31日現在)	(2015年12月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	41,590	44,920
固定資産	19,320	21,114
資産合計	60,910	66,035
<b>負債の部</b>		
流動負債	11,388	14,594
固定負債	2,200	2,439
負債合計	13,589	17,033
<b>純資産の部</b>		
株主資本	44,416	44,489
その他の包括利益累計額	2,905	4,512
純資産合計	47,321	49,001
負債純資産合計	60,910	66,035

Point

流動資産

受取手形及び売掛金が23億85百万円、製品が11億47百万円減少した一方、現金及び預金が18億37百万円増加したこと等により、流動資産は前期末比33億30百万円減少しました。

流動負債

短期借入金が1億72百万円増加した一方、買掛金が22億17百万円、未払費用が9億31百万円減少したことにより、流動負債は前期末比32億6百万円減少しました。

純資産

利益剰余金が72百万円、為替換算調整勘定が17億84百万円減少したことにより、純資産は前期末比16億80百万円減少しました。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	(2016年1月1日から2016年12月31日まで)	(2015年1月1日から2015年12月31日まで)
売上高	59,903	71,946
売上原価	41,001	49,303
売上総利益	18,901	22,642
販売費及び一般管理費	16,539	18,087
営業利益	2,361	4,554
営業外収益	709	804
営業外費用	215	218
経常利益	2,855	5,140
特別利益	-	753
特別損失	113	-
税金等調整前当期純利益	2,742	5,893
法人税等	1,260	1,845
親会社株主に帰属する当期純利益	1,482	4,048

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	(2016年1月1日から2016年12月31日まで)	(2015年1月1日から2015年12月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,537	6,214
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,540	△2,552
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,524	△5,219
現金及び現金同等物に係る換算差額	△635	△561
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,837	△2,118
現金及び現金同等物の期首残高	14,192	15,915
連結子会社の合併による現金及び現金同等物の増減額	-	394
現金及び現金同等物の期末残高	16,030	14,192

営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益が27億42百万円、減価償却費が33億65百万円、たな卸資産の減少額が22億63百万円となったこと等により、営業活動によるキャッシュ・フローは65億37百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出が22億86百万円となったこと等により、投資活動によるキャッシュ・フローは25億40百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

短期借入金の純増が3億8百万円、長期借入金による収入が7億円となった一方、長期借入金の返済による支出が9億77百万円、配当金の支払額が15億54百万円あったこと等により、財務活動によるキャッシュ・フローは15億24百万円の支出となりました。

会社概要

商号 株式会社タムロン  
 創業 1950年11月1日  
 設立 1952年10月27日  
 本社 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地  
 資本金 69億23百万円  
 従業員数 4,728名(連結)

役員 2017年3月29日現在

代表取締役社長 鯉坂 司郎  
 取締役副社長 新井 宏明  
 取締役副社長 志村 忠寛  
 取締役副社長 桜庭 省吾  
 専務取締役 大瀬 英世  
 専務取締役 濱田 憲一  
 専務取締役 阿保 正行  
 常務取締役 市川 敬  
 常務取締役 川鍋 宏  
 常務取締役 増成 弘治  
 取締役 北爪 泰樹  
 取締役 大塚 博司  
 取締役 張 勝海  
 取締役 清水 秀雄\*  
 取締役 横瀬 三亀夫\*  
 常勤監査役 土屋 次男  
 常勤監査役 並木 孝行\*  
 監査役 利根 忠博\*  
 監査役 西本 恭彦\*

注1. \*印の取締役は社外取締役、監査役は社外監査役であります。  
 2. 当社は、取締役 清水 秀雄、取締役 横瀬 三亀夫及び監査役 並木 孝行を東京証券取引所の定める独立役員として、同取引所に対し届け出しています。

株式の状況

発行可能株式総数 80,000,000株  
 発行済株式の総数 25,950,000株  
 単元株式数 100株  
 株主数 5,862名 \*単元未満除く

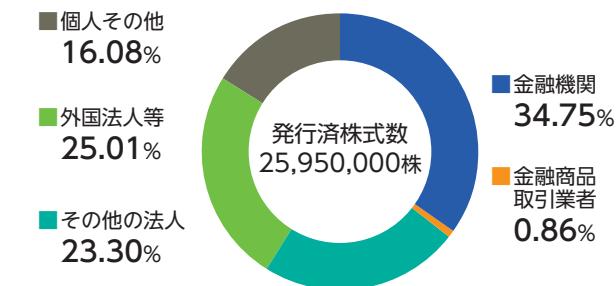
大株主

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
株式会社ニューウェル	4,898	18.87
ソニー株式会社	3,129	12.06
BNP PARIBAS SEC SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/ ABERDEEN GLOBAL CLIENT ASSETS	1,139	4.38
株式会社埼玉りそな銀行	1,122	4.32
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE NVI01	1,088	4.19
THE HONGKONG AND SHANGHAI BANKING CORPORATION LTD - HONG KONG PRIVATE BANKING DIVISION-CLIENT ACCOUNT	986	3.80
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	922	3.55
日本生命保険相互会社	580	2.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	550	2.12
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	364	1.40

注. ソニー株式会社の持株数3,129千株は、みずほ信託銀行株式会社へ委託した信託財産であります。信託約款上、議決権の行使並びに処分権については、ソニー株式会社が指図権を留保しております。

株式所有者別分布

\*単元未満除く





# フォトコンテスト開催報告

入賞作品  
決定!

## 第9回 タムロン 鉄道風景コンテスト 私の好きな鉄道風景ベストショット



鉄道のまち大宮(さいたま市)に本社を置く企業として、さいたま市、さいたま市教育委員会、さいたま商工業会議所のご後援をいただき、地域の活性化と鉄道文化の振興に貢献することを目的として「タムロン鉄道風景コンテスト」を開催しています。

今回は応募人数1,894名、応募総作品数7,098点と、応募点数が過去最高となるご応募をいただきました。鉄道写真家 広田尚敬氏と、フォトライター「鉄子」として人気の矢野直美氏により厳正な審査が行われ、87名の方が入賞されました。

小・中・高校生の部 大賞受賞作品  
「安全第一!! 夏のひとコマ」 栗原 朗 様



一般の部 大賞受賞作品  
「雪の日の出会い」 荒木 貴啓 様

## 第13回 タムロン マクロレンズフォトコンテスト

マクロレンズフォトコンテストは、マクロレンズのPR及び普及を目的に2004年から毎年開催しているものです。このコンテストの特徴としては、当社のマクロレンズはもちろんのこと、マクロレンズであればメーカーを問わず、旧モデルも含めて広く作品を募集していることにあります。分野はネイチャー部門とノンジャンル部門を設定しています。

応募人数1,809名、応募総作品数4,796点と、今回もたくさんのご応募をいただきました。審査にあたっては、ネイチャーの部は石井孝親氏に、ノンジャンルの部は岡本洋子氏に行っていただき、両氏の厳正なる審査の結果、30名の方が入賞されました。



グランプリ  
「琵琶湖花火大会」 山田 真輝 様

タムロンのものづくり

### VIRTUAL TOUR CAMERA LENS MANUFACTURING

一眼レフ用レンズができるまで

#### レンズ加工編

タムロンの一眼レフ用ズームレンズは、約250個もの部品を使用しています。研磨やコーティングを経てレンズを仕上げる「レンズ加工」、プラスチック材料を金型で射出する「成形」、アルミダイキャストを削り出す「金属加工」の3工程で部品を製造します。組立工程では、サブ工程で手ブレ補正機構、AF用ドライブ機構、絞リ機構などをユニット化し、メイン工程で各ユニットとレンズ群がひとつの鏡枠に組み込まれます。各工程で各種の検査を繰り返し、調整を行い、組立を完了します。今回は、レンズ加工工程についてご紹介します。

工程概要



#### ガラス素材搬入

研削やプレスで成形されたレンズを素材メーカーから購入。

#### 粗ずり

粗ずり機と呼ばれる研削機で、ガラス素材の表面を削る。



#### 精研削

粗ずりしたガラスをさらに研削。摩擦熱を冷却液で冷やしながら、最終的な形状に。

#### 研磨

専用の研磨剤を流し込みながら研磨皿の上でレンズを高速回転させ、入念に研磨。



#### 洗浄

薬品、洗剤、純水などが入った洗浄槽に落らせ、レンズ表面に付着した研磨剤や埃を洗い落とす。

#### 工程検査

研磨と洗浄を終えたレンズの精度を検査。

#### コート

真空状態のコート機内に入れ、コート機内に高圧電流を流し、薬品を飛ばしてレンズに蒸着。



#### 芯取

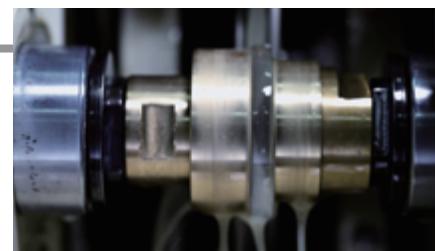
光軸をきちんと出すため、レンズの外周を完全な円に仕上げる。

#### 洗浄

研磨時に付着した汚れを洗い落とすため、今度は超音波洗浄機で洗浄。

#### 接合(接着)

一部は、光学性能向上のため、異なる特性を持ったレンズを貼り合わせ。



組立工程へ

## 株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	定時株主総会 毎年 12月31日 期末配当 毎年 12月31日 中間配当 毎年 6月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) ※ 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。
公告方法	電子公告 ※ ただし、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 当社ホームページ <a href="http://www.tamron.co.jp">http://www.tamron.co.jp</a>

### お知らせ

- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について  
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払について  
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

## 株式会社タムロン

〒337-8556 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地  
TEL 048-684-9111(代) FAX 048-683-8289 <http://www.tamron.co.jp>

■ IR情報関連に関するお問い合わせ：経営企画室

TEL 048-684-9114(午前9:00~午後5:20) FAX 048-683-8282 e-mail: kabushiki@tamron.co.jp

## コーポレートサイトをリニューアルしました

お客様に必要な情報をより分かりやすくお届けできるよう、コーポレートサイトをフルリニューアルしました。パソコンだけでなくスマートフォンやタブレットからも閲覧しやすいレイアウトで、今後も適切な情報発信を行ってまいります。

### 主な掲載コンテンツ

- 企業情報
- 製品一覧
- IR情報
- CSR情報
- 採用情報
- サポート・ダウンロード

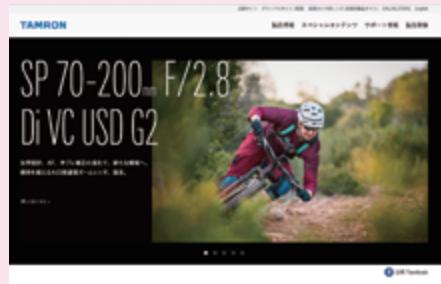
### コーポレートサイト

URL <http://www.tamron.co.jp>



### タムロン フォトサイト (写真レンズ用フォトサイト)

URL <http://www.tamron.jp>



**UD FONT**  
by MORISAWA

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



本冊子は環境保全のため、植物油インキで印刷しています。